

講義科目名称： 障害者福祉論			
開講期間： 前期	配当年： 1年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 木下寿恵			

テーマ	障がい者の実態とそれを支える福祉的支援の理念、歴史、制度、実際を学ぶ
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、日本における障がい者の実態</p> <p>第2回 わが国の法律における「障がい」「障がい者」の定義</p> <p>第3回 「ノーマライゼーション」という考え方と「リハビリテーション」①（ノーマライゼーション）</p> <p>第4回 「ノーマライゼーション」という考え方と「リハビリテーション」②（リハビリテーション）</p> <p>第5回 「自立(自律)」の概念①（「自立」と「自律」の違い） 地域において自立生活をしている障がい者への支援の経験を踏まえて、自立(自律)とはどのようなことなのかを解説します</p> <p>第6回 「自立(自律)」の概念②（「自立(自律)」とは何か） 地域において自立生活をしている障がい者への支援の経験を踏まえて、自立(自律)とはどのようなことなのかを解説します</p> <p>第7回 「自立(自律)」の概念③（地域における自立生活の実際）</p> <p>第8回 「ICF(国際生活機能分類)」における「障がい」の捉え方</p> <p>第9回 障がい者福祉施策の変遷①（第二次世界大戦後）</p> <p>第10回 障がい者福祉施策の変遷②（高度経済成長期）</p> <p>第11回 「障がい者の権利に関する条約」</p> <p>第12回 障がい者福祉の関連施策①（バリアフリー法）</p> <p>第13回 障がい者福祉の関連施策②（雇用、年金）</p> <p>第14回 障がいを持っている人たちの現状①（高次脳機能障がい） 障害者支援施設などでの経験を踏まえて、障がいを持っている人たちが体験している大変さの実態について解説します</p> <p>第15回 障がいを持っている人たちの現状②（筋萎縮性側索硬化症〔ALS〕） 障害者支援施設などでの経験を踏まえて、障がいを持っている人たちが体験している大変さの実態について解説します</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業概要】障がいを持っている人たちが社会の中でどのように扱われてきたかを学び、体験してきた大変さの実態を学ぶ。また、障がいを持っている人たちにに関する人権思想や制度、援助の実際を学ぶ</p> <p>【授業の到達目標】障がいを持っている人たちの実態を理解し、障害者福祉に関する基礎的な知識を習得することができる</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部・子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである「知識・技能を理解する力」「実践的に課題を発見する力」及び「学士力」の構成要素の一つである「人類の文化、社会と自然に関する知識の理解」を身につけることができる</p>

テキスト	テキスト名：『よくわかる障害者福祉 第7版』 ISBN:978-4-623-08972-7 出版社名：ミネルヴァ書房 著者名：小澤 温・編 価格(税抜):2,500円
参考文献	講義中適宜紹介する
成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	【成績評価の基準・方法】学期末試験：レポート=80：20 【課題に対するフィードバック方法】学期末試験やレポートに関するフィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う
質問・相談の受付方法	オフィスアワー(後日掲示)を積極的に活用してほしい。 レスポンスカードを配布した授業においては、そちらに積極的に記入してほしい。
履修条件	特に設けない
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴 講 生 【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】
メッセージ	身体障害者療護施設と障害者支援施設において、生活支援員(介護主任など)として6年6ヵ月介護に従事していました。日常生活を支援する中での障がい者とその家族の思いや状況などを、授業の中でお伝えしていきたいと考えています。「『障がい』とは何か」ということについて考え、障がいを持っている人たちが切り拓いてきた歴史を知ることによって、いままで見慣れた景色が違ったものに見えてくると思います
準備学習について	【事前学習】 毎回授業内で予習内容を提示する。次回授業までに行っておくこと(2時間) 【事後学習】 授業内で配布した資料やテキストの該当ページを復習しておくこと(2時間)

講義科目名称： 経営管理の基礎

授業コード： 14400

英文科目名称： -Basics of business management

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
岩本勇			
添付ファイル			

テーマ	経営のテクニックを楽しく学ぶ (マーケティング戦略論)
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 プロダクト (pp. 12-20)</p> <p>第3回 プレイス (pp. 21-28)</p> <p>第4回 プロモーション (pp. 29-35)</p> <p>第5回 プライス (pp. 36-37)</p> <p>第6回 マーケティング・ミックス (pp. 38-44)</p> <p>第7回 セグメンテーション (pp. 45-63)</p> <p>第8回 ターゲッティング (pp. 64-74)</p> <p>第9回 製品ライフサイクル (pp. 75-114)</p> <p>第10回 市場地位のマーケティング (pp. 115-174)</p> <p>第11回 業界構造分析 (pp. 175-224)</p> <p>第12回 全体戦略 (pp. 225-246)</p> <p>第13回 事業とドメイン (pp. 247-266)</p> <p>第14回 事例</p> <p>第15回 授業の総括</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業概要】</p> <p>経営は、リスクに対し果敢にチャレンジすることが必要である。企業家の知恵と知恵が競争のなかでぶつかり合い、消費者のニーズ(欲求)に応えるために臨機応変に対応することで、結果として世の中がよくなっていくのが自由競争の本質である。それでは企業はどのような視点で競争力を高めたらよいのだろうか。本授業では、企業組織全体が一体となって行う企業間競争技法を体系的に捉えたマーケティング戦略論を中心に、その戦略立案プロセスと各論の理解に努める。また、現在取り組まれている様々な企業戦略の事例を取り上げ、企業家の視点で経営学を論理的且つ実践的に解説する。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <p>本授業は、現在取り組まれている様々な企業戦略の事例を学び、企業家の視点で経営学を論理的且つ実践的に理解し、経営感覚を身に付けることを目標とする。なお、アクティブラーニング(ディスカッション、企画立案など)を積極的に取り入れ、より実践的な経営感覚を身に付けることを目標とする。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】</p> <p>この科目の履修を通じて、社会福祉学部・子ども学部で学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、「(知識・技能を理解する力)」、「(実践的に課題を発見する力)」、「(課題を解決へと導く力)」及び「学士力」の構成要素の一つである、「(多文化・異文化に関する知識の理解)」、「(論理的思考力)」、「(問題解決力)」を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：『わかりやすいマーケティング戦略』新版</p> <p>ISBN-10 : 4641123551</p> <p>ISBN-13 : 978-4641123557</p> <p>出版社：有斐閣アルマ</p> <p>著者名：沼上 幹</p> <p>価格(税抜)：2,090円</p>

参考文献	講義中適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> ・期末に行う定期試験で成績評価を行う。 ・フィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う
質問・相談の受付方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト票の質問欄に記載があれば、次回の講義内で回答。 ・月曜を除く時間帯に研究室（研究室棟203号）にて、不在の場合は携帯電話、又は次のアドレスでも受け付ける（iwamoto@suw.ac.jp） ・オフィスアワー（後日掲示）を積極的に利用して欲しい
履修条件	特に設けない。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】
メッセージ	事例を豊富に用意し、学生の皆さんが楽しく、そして解りやすい授業を展開するよう努めます。そのために学生の皆さんとの情報交換を大切にしていきます。緊張せず、リラックスして、積極的に参加してください。実務経験として、流通政策研究所主任研究員、KPMGビートマーウィック経営コンサルタントなど10年を超える実務経験を有し、中央官庁や地方自治体の各種プロジェクト、一般企業のコンサルティングなど、流通、物流、情報システム構築に多くの研鑽を積んでいる。日本商工会議所販売士検定試験の試験委員、各行政の専門委員、他大学や企業の講師を兼任し、現在は、経営関連学会協議会評議員、日本企業経営学会常任理事、日本産業経済学会常任理事など、学術研究学会において重職に就いている。
準備学習について	普段の生活の中で、マーケティング理論の活用事例を発見するよう努力しましょう。 【事前学習】 毎回授業内で予習内容を提示する。次回授業までに行っておくこと（1時間） 【事後学習】 毎回授業内で復習内容を提示する。授業時間外で振り返りを行うこと（1時間）

講義科目名称： 医学概論（人体の構造と機能及び疾病）/人体の構造と機能及び疾病（2021年度以前入学生）			
開講期間： 前期	配当年： 1年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 本多祥子			

テーマ	人を対象とする専門職に必要な基礎的な医学知識を身につける。
授業計画	<p>第1回 ライフステージにおける心身の変化と健康課題 心身の加齢と老化、ライフステージ別の健康課題</p> <p>第2回 健康及び疾病の捉え方 健康の概念、疾病の概念、国際生活機能分類（ICF）</p> <p>第3回 身体構造と心身機能（からだのしくみの理解）① 筋・骨格系の構造と機能</p> <p>第4回 身体構造と心身機能（からだのしくみの理解）② 血液・造血系、循環器の構造と機能</p> <p>第5回 身体構造と心身機能（からだのしくみの理解）③ 泌尿器系、呼吸器系の構造と機能</p> <p>第6回 身体構造と心身機能（からだのしくみの理解）④ 消化器系の構造と機能</p> <p>第7回 身体構造と心身機能（からだのしくみの理解）⑤ 神経系、内分泌系の構造と機能</p> <p>第8回 身体構造と心身機能（からだのしくみの理解）⑥ 皮膚、筋骨格系、生殖器系の構造と機能</p> <p>第9回 疾病と障害の成り立ち及び回復過程① 疾病の発症原因、病変の成立機序 生活習慣病、悪性腫瘍、脳血管疾患 ※看護師や介護支援専門員としての経験をもとに、具体的な症例を紹介しながら解説します。</p> <p>第10回 疾病と障害の成り立ち及び回復過程② 心疾患、高血圧、糖尿病・内分泌疾患 ※看護師や介護支援専門員として医療機関等に従事した経験をもとに、具体的な症例を紹介しながら解説します。</p> <p>第11回 疾病と障害の成り立ち及び回復過程③ 呼吸器疾患、消化器疾患 ※看護師や介護支援専門員として医療機関等に従事した経験をもとに、具体的な症例を紹介しながら説明します。</p> <p>第12回 疾病と障害の成り立ち及び回復過程④ 血液疾患、腎臓疾患、泌尿器系疾患 ※看護師や介護支援専門員として医療機関等に従事した経験をもとに、具</p>

	<p>体的な症例を紹介しながら説明します。</p> <p>第13回 疾病と障害の成り立ち及び回復過程⑤ 骨関節疾患、目・耳の疾患、感染症 ※看護師や介護支援専門員として医療機関等に従事した経験をもとに、具体的症例を紹介しながら説明します。</p> <p>第14回 疾病と障害の成り立ち及び回復過程⑥ 神経疾患と難病、先天性疾患、その他高齢者に多い疾患 ※看護師や介護支援専門員として医療機関等に従事した経験をもとに、具体的症例を紹介しながら説明します。</p> <p>第15回 障害の概要、リハビリテーションの概要と範囲、公衆衛生</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士・公認心理師の受験資格を取得するための指定科目であるため、それぞれの専門性に必要となる基礎的な医学知識について概論的に講義します。単調な知識の列挙にとどまらないよう図や表、視聴覚教材、事例などを交えながら展開します。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①人のライフステージにおける心身の変化と健康課題について理解することができる。</p> <p>②健康・疾病の捉え方について理解できる。</p> <p>③人の身体構造と心身機能について理解できる。</p> <p>④疾病と障害の成り立ち及び回復過程について理解できる。</p> <p>⑤公衆衛生の観点から、人々の健康に影響を及ぼす要因や健康課題を解決するための対策を列挙できる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】</p> <p>この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力、主体的に学習する力、及び「学士力」の構成要素の一つである、論理的思考力、問題解決力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 1 医学概論 ISBN：978-4-8058-8231-3 出版社：中央法規 著者名：一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編 価格（税込）：2,750円</p>
参考文献	授業中に適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>・学期末試験：授業での積極性＝70：30</p> <p>・学期末試験に関するフィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</p>
質問・相談の受付方法	教室、オフィスアワー等で適宜受けつける。
履修条件	特に設けない。
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【可】</p> <p>聴 講 生 【可】</p> <p>キャリアデザイン・カレッジ生【可】</p>

メッセージ	<p>社会福祉に従事する人にとって、医療の基礎的な知識を持つことは人を支える上で欠かせないものです。実践に必要な観察力、判断力の基盤となる人間の心理、人体の構造と機能の基礎的な知識を理解することは、医療職等との連携においても重要です。利用者の医療と一緒に考えることができるように心がけて学んでください。看護師や介護支援専門員として病院（集中治療室、外科、内科）や介護保険事業所等に従事した経験を活かし、実例やエピソード等も交えながらわかりやすく説明したいと思います。</p>
準備学習について	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の後には必ず内容を見直し、1時間以上復習を行いましょう。次回の授業でポイントを確認するので、答えられるようにしておいてください。 ・次回の授業内容を、前日までに1時間以上予習しておきましょう。

講義科目名称： 相談援助の理論と方法C			
開講期間： 前期	配当年： 3年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 渡邊英勝			

テーマ	相談援助実習・演習科目に連動した「実践能力」を身につけるための理論と方法を学ぶ
授業計画	第1回 相談援助における対象の理解
	第2回 相談援助の対象をどうとらえるか
	第3回 ケースマネジメント（ケアマネジメント）の基本・過程 社会福祉協議会に務めているときの居宅介護支援事業所において、介護支援専門員（ケアマネジャー）としてのケースマネジメントの実際に関するエピソードをお話しします。
	第4回 ケースマネジメントにおけるアセスメントの特徴 社会福祉協議会に務めているときの居宅介護支援事業所において、介護支援専門員（ケアマネジャー）としてのケースマネジメントの実際に関するエピソードをお話しします。 また、介護認定調査員としての経験、介護認定審査委員としての経験についても触れたいと思います。
	第5回 ケアプランの作成・実施の特徴 ケースマネジメントの特徴 ソーシャルワークの関係 社会福祉協議会に務めているときの居宅介護支援事業所において、介護支援専門員（ケアマネジャー）としてのケースマネジメントの実際に関するエピソードをお話しします。
	第6回 グループワークを活用した相談援助① グループを活用した相談援助
	第7回 グループワークを活用した相談援助② 自助グループを活用した相談援助 社会福祉協議会時代に様々な自助グループと接することがありました。その時のエピソードをお話ししたいと思います。
	第8回 相談援助の対象とケースマネジメント（中間小テスト）
	第9回 相談援助の対象とケースマネジメント（中間小テストの解答と解説・復習） 小テストを解答解説後、これまで得た知識の定着を図ります。
	第10回 コーディネーションの目的と意義・方法・技術・留意点

	<p>地域包括支援センターの管理者として実際に経験した他の専門職との連携・協働のためのコーディネーションの実際について紹介します。</p> <p>第 11 回 ネットワーキングの意義と目的・方法 地域福祉を推進する総合的なネットワークの形成とシステム</p> <p>社会福祉協議会での地域福祉コーディネーター（コミュニティソーシャルワーカー）としての経験から、ネットワークの方法と地域福祉を推進する総合的なネットワークの形成方法の実際について解説します。</p> <p>第 12 回 相談援助における社会資源の活用・調整・開発の意義と目的・方法と留意点 社会福祉協議会での地域包括支援センター業務、居宅介護支援事業所での業務、地域福祉コーディネーターとしての業務を踏まえ、社会資源の活用・調整・開発の実際についてお話しします。</p> <p>第 13 回 ソーシャルアクションによるシステムづくり 社会福祉協議会での地域福祉コーディネーターとしてかかわったときのソーシャルアクションの実際についてお話しします。</p> <p>第 14 回 さまざまな実践モデルとアプローチとその意味 治療モデル・生活モデル・ストレングスモデル 地域福祉コーディネーター、介護支援専門員、地域包括支援センター管理者・社会福祉士・主任ケアマネジャー 障害者支援施設での生活支援員等の経験からのソーシャルワークの基礎モデルについて解説します。</p> <p>第 15 回 ジェネラリスト・ソーシャルワークの展開と実践モデル 地域福祉コーディネーター、介護支援専門員、地域包括支援センター管理者・社会福祉士・主任ケアマネジャー 障害者支援施設での生活支援員等の経験からのジェネラリストソーシャルワークとは何かを解説します。</p>
<p>授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連</p>	<p>【概要】相談援助の実際場面において応用できる理論と方法の基本的事項を理解する。特に相談援助における対象者への支援と実践理論との接点を知ることにより、相談援助の概念及び実践理論がいかに現場実践に結びついているのかを体系的に学ぶ。</p> <p>【到達目標】ソーシャルワーカーとしての相談援助に関する知識を身につける。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力及び「学士力」の構成要素の一つである、論理的思考力、問題解決力、生涯学習力を身につけることができる。</p>
<p>テキスト</p>	<p>テキスト名：新・社会福祉士養成講座 相談援助の理論と方法Ⅱ 第3版 ISBN：978-4-8058-5104-3 出版社：中央法規 著者名：社会福祉士養成講座編集委員会 価格（税抜）：2,600円</p>
<p>参考文献</p>	<p>講義中適宜紹介する。</p>

成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】①対面授業の間は毎回のリアクションペーパー(中間小テスト含む)50%</p> <p>②最終課題レポート(50%)</p> <p>【フィードバックの方法】リアクションペーパーを回収した次の授業内で総評を口頭で伝え及び質問に対し回答をする。</p>
質問・相談の受付方法	<p>①授業内で適宜、質問相談に応じる</p> <p>②リアクションペーパーに積極的に記入して欲しい</p> <p>③オフィスアワーを積極的に活用して欲しい</p>
履修条件	特に設けない
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【可】</p> <p>聴講生【可】</p> <p>キャリアデザイン・カレッジ生【可】</p>
メッセージ	<p>積極的な質問を歓迎します。</p> <p>障害者支援施設での生活支援員、社会福祉協議会での、ボランティアコーディネーター、地域福祉コーディネーター、介護支援専門員、総合相談員、事務局長としての組織マネジメント等授業の中でエピソードや実務的な内容についても触れたいと思います。</p>
準備学習について	<p>【事前学習】毎回授業内で予習内容を提示します。次回授業までに予習を行ってください。(2時間)</p> <p>【事後学習】毎回授業後に履修者同士でディスカッションを行い、自分の意見を整理するようにしてください。(2時間)</p>

講義科目名称： 相談援助の理論と方法D			
開講期間： 後期	配当年： 3年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 渡邊英勝			

社会福祉学部
共通専門科目

テーマ	相談援助実習・演習科目に連動した「実践能力」を身につけるための理論と方法を学ぶ
授業計画	第1回 相談援助の理論と方法C（前期）のふりかえり
	第2回 心理的アプローチ、機能的アプローチ 地域福祉コーディネーター、介護支援専門員、地域包括支援センター管理者・社会福祉士・主任ケアマネジャー 障害者支援施設での生活支援員等の経験からのソーシャルワークの実践アプローチについて解説します。
	第3回 問題解決アプローチ 地域福祉コーディネーター、介護支援専門員、地域包括支援センター管理者・社会福祉士・主任ケアマネジャー 障害者支援施設での生活支援員等の経験からのソーシャルワークの実践アプローチについて解説します。
	第4回 課題中心アプローチ 地域福祉コーディネーター、介護支援専門員、地域包括支援センター管理者・社会福祉士・主任ケアマネジャー 障害者支援施設での生活支援員等の経験からのソーシャルワークの実践アプローチについて解説します。
	第5回 危機介入アプローチ 地域福祉コーディネーター、介護支援専門員、地域包括支援センター管理者・社会福祉士・主任ケアマネジャー 障害者支援施設での生活支援員等の経験からのソーシャルワークの実践アプローチについて解説します。
	第6回 行動変容アプローチ 地域福祉コーディネーター、介護支援専門員、地域包括支援センター管理者・社会福祉士・主任ケアマネジャー 障害者支援施設での生活支援員等の経験からのソーシャルワークの実践アプローチについて解説します。
	第7回 エンパワメントアプローチ、ナラティブアプローチ、その他の実践アプローチ 地域福祉コーディネーター、介護支援専門員、地域包括支援センター管理者・社会福祉士・主任ケアマネジャー 障害者支援施設での生活支援員等の経験からのソーシャルワークの実践アプローチについて解説します。
	第8回 スーパービジョンの意義と目的・方法と留意点 社会福祉協議会において、総務係長、地域福祉係長、事務局長として部下に対するスーパービジョンの経験を踏まえ、意義・目的・方法について解

	<p>第9回 説明します。 コンサルテーションとは(目的と意義)・中間小テスト 社会福祉協議会において、総務係長、地域福祉係長、事務局長として部下に対するスーパービジョンの経験を踏まえ、意義・目的・方法について解説します。</p> <p>第10回 中間小テストの解答・解説 ソーシャルワークの実践アプローチの国家試験過去問を解答解説する。アプローチの復習を兼ね知識の定着を目指す。</p> <p>第11回 ケースカンファレンスの技術 介護支援専門員(ケアマネジャー)として、ケアプラン作成のためのケアカンファレンスの実際、地域包括支援センターの地域ケア会議の実際、介護認定審査会における介護認定時の他の専門職との会議等の経験からケースカンファレンスについて解説します。</p> <p>第12回 ケースカンファレンスの実際 介護支援専門員(ケアマネジャー)として、ケアプラン作成のためのケアカンファレンスの実際、地域包括支援センターの地域ケア会議の実際、介護認定審査会における介護認定時の他の専門職との会議等の経験からケースカンファレンスについて解説します。</p> <p>第13回 相談援助における個人情報保護の活用・家族システムアプローチ 介護支援専門員(ケアマネジャー)として、ケアプラン作成のためのケアカンファレンスの実際、地域包括支援センターの地域ケア会議の実際、介護認定審査会における介護認定時の他の専門職との会議等の経験からケースカンファレンスについて解説します。</p> <p>第14回 事例研究の意義・方法と留意点 介護支援専門員(ケアマネジャー)として、ケアプラン作成のためのケアカンファレンスの実際、地域包括支援センターの地域ケア会議の実際、介護認定審査会における介護認定時の他の専門職との会議等の経験から事例研究について解説します。</p> <p>第15回 事例分析の目的と意義・方法と留意点 介護支援専門員(ケアマネジャー)として、ケアプラン作成のためのケアカンファレンスの実際、地域包括支援センターの地域ケア会議の実際、介護認定審査会における介護認定時の他の専門職との会議等の経験から事例分析について解説します。</p>
<p>授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連</p>	<p>【概要】相談援助の実際場面において応用できる理論と方法の基本的事項を理解する。特に相談援助における対象者への支援と実践理論との接点を知ることにより、相談援助の概念及び実践理論がいかに現場実践に結びついているのかを体系的に学ぶ。</p> <p>【到達目標】ソーシャルワーカーとしての相談援助に関する知識を身につける。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力及び「学士力」の構成要素の一つである、論理的思考、問題解決能力、生涯学習力を身につけることができる。</p>

テキスト	<p>テキスト名：新・社会福祉士養成講座 相談援助の理論と方法Ⅱ 第3版 ISBN：978-4-8058-5104-3 出版社：中央法規 著者名：社会福祉士養成講座編集委員会 価格（税抜）：2,600円</p>
参考文献	講義中適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】①毎回のリアクションペーパー（中間テスト含む）（50%） ②課題レポート（50%）</p> <p>【フィードバックの方法】リアクションペーパーを回収した次の授業内で、総評を口頭で伝え及び質問に対し回答をする。</p>
質問・相談の受付方法	<p>①授業内で適宜、質問相談に応じる ②リアクションペーパーに積極的に記入して欲しい ③オフィスアワーを積極的に活用して欲しい</p>
履修条件	特に設けない
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】</p>
メッセージ	<p>積極的な質問を歓迎します。</p> <p>障害者支援施設での生活支援員、社会福祉協議会での、ボランティアコーディネーター、地域福祉コーディネーター、介護支援専門員、総合相談員、事務局長としての組織マネジメント等授業の中でエピソードや実務的な内容についても触れたいと思います。</p>
準備学習について	<p>【事前学習】毎回授業内で予習内容を提示します。次回授業までに予習を行っておくこと（2時間）</p> <p>【事後学習】毎回授業後に履修者同士でディスカッションを行い、自分の意見を整理するようにしてください（2時間）</p>

講義科目名称： ソーシャルワークの理論と方法A／相談援助の理論と方法A (2020 以前入学生)			
開講期間： 前期	配当年： 2年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 張昌鎔			

テーマ	ソーシャルワークの過程、実践モデルとアプローチを学ぶ。
授業計画	<p>第1回 第1章 人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク 第1節 ソーシャルワーカーが学ぶ理論、第2節 システム理論、第3節 生態学理論</p> <p>【事前学習】1回目のソーシャルワーカーが学ぶ理論とシステム理論と、生態学理論を読み、概略を把握しておく (1時間)</p> <p>【事後学習】1回目の授業後の小テストを中心に解答と疑問点を作成しておく (1時間)</p> <p>総合福祉館の経験をもとに、人を援助する姿勢や意味に関してプレゼンテーションしながら共に考える。</p>
	<p>第2回 バイオ・サイコ・ソーシャルモデル、マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク、ソーシャルワークの目標(第1章 4節、5節、6節)</p> <p>【事前学習】2回目のバイオ・サイコ・ソーシャルモデル、マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク、ソーシャルワークの目標を読み、概略を把握しておく (1時間)</p> <p>【事後学習】2回目の授業後の小テストを中心に解答と疑問点を作成しておく (1時間)</p>
	<p>第3回 ソーシャルワークの過程 ケースの発見とエンゲージメント (インテーク) (第2章 1節、2節)</p> <p>【事前学習】3回目のソーシャルワークの過程 ケースの発見とエンゲージメント (インテーク) を読み、概略を把握しておく (1時間)</p> <p>【事後学習】3回目の授業後の小テストを中心に解答と疑問点を作成しておく (1時間)</p>
	<p>第4回 ソーシャルワークの過程 (アセスメント) (第3章 1節)</p> <p>【事前学習】4回目のソーシャルワークの過程 (アセスメント) を読み、概略を把握しておく (1時間)</p> <p>【事後学習】4回目の授業後の小テストを中心に解答と疑問点を作成しておく (1時間)</p>
	<p>第5回 ソーシャルワークの過程 (アセスメント) (第3章 2節、3節)</p> <p>【事前学習】5回目のソーシャルワークの過程 (アセスメント) におけるニーズを読み、概略を把握しておく (1時間)</p> <p>【事後学習】5回目の授業後の小テストを中心に解答と疑問点を作成してお</p>

	く (1 時間)
第 6 回	<p>ソーシャルワークの機能、人と環境 (第 2 章 3 節、第 3 章)</p> <p>【事前学習】 6 回目のソーシャルワークの機能、人と環境を読み、概略を把握しておく (1 時間)</p> <p>【事後学習】 6 回目の授業後の小テストを中心に解答と疑問点を作成しておく (1 時間)</p>
第 7 回	<p>援助関係の意義、援助関係の形成に影響する要因 (第 4 章 1 節、2 節)</p> <p>【事前学習】 7 回目の援助関係の意義、援助関係の形成に影響する要因を読み、概略を把握しておく (1 時間)</p> <p>【事後学習】 7 回目の授業後の小テストを中心に解答と疑問点を作成しておく (1 時間)</p>
第 8 回	<p>援助構造と援助関係、援助関係の質、実践領域 (第 4 章 3 節、4 節、5 節)</p> <p>【事前学習】 8 回目の援助構造と援助関係、援助関係の質、実践領域を読み、概略を把握しておく (1 時間)</p> <p>【事後学習】 8 回目の授業後の小テストを中心に解答と疑問点を作成しておく (1 時間)</p>
第 9 回	<p>相談援助の展開過程の流れ、ケース発見 (第 5 章 1 節、2 節)</p> <p>【事前学習】 9 回目の相談援助の展開過程の流れ、ケース発見を読み、概略を把握しておく (1 時間)</p> <p>【事後学習】 9 回目の授業後の小テストを中心に解答と疑問点を作成しておく (1 時間)</p>
第 10 回	<p>インテーク、問題把握、ニーズ確定 (第 5 章 3 節、4 節)</p> <p>【事前学習】 10 回目のインテーク、問題把握、ニーズ確定を読み、概略を把握しておく (1 時間)</p> <p>【事後学習】 10 回目の授業後の小テストを中心に解答と疑問点を作成しておく (1 時間)</p>
第 11 回	<p>アセスメントと支援目標の設定 (第 5 章 5 節、6 節)</p> <p>【事前学習】 11 回目のアセスメントと支援目標の設定を読み、概略を把握しておく (1 時間)</p> <p>【事後学習】 11 回目の授業後の小テストを中心に解答と疑問点を作成しておく (1 時間)</p>
第 12 回	<p>支援計画の作成、支援計画の実施 (第 5 章 7 節、8 節)</p> <p>【事前学習】 12 回目の支援計画の作成、支援計画の実施を読み概略を把握しておく (1 時間)</p> <p>【事後学習】 12 回目の授業後の小テストを中心に解答と疑問点を作成してお</p>

	<p>く (1 時間)</p> <p>第 13 回 モニタリング、再アセスメント (第 6 章 1 節、2 節) 【事前学習】 13 回目のモニタリング、再アセスメントを読み概略を把握しておく (1 時間) 【事後学習】 13 回目の授業後の小テストを中心に解答と疑問点を作成しておく (1 時間)</p> <p>第 14 回 支援の終結、効果測定、アフターケア、サービス開発 (第 6 章 3 節、4 節) 【事前学習】 14 回目の支援の終結、効果測定、アフターケア、サービス開発を読み、概略を把握しておく (1 時間) 【事後学習】 14 回目の授業後の小テストを中心に解答と疑問点を作成しておく (1 時間)</p> <p>第 15 回 アウトリーチ、前期のまとめと質疑応答 【事前学習】 15 回目のアウトリーチを読み概略を把握しておく (1 時間)</p> <p>【事後学習】 15 回目の授業後の小テストを中心に解答と疑問点を作成しておく (1 時間) 後期授業に関する自分の考えや意見をプレゼンテーションしながら共に考える。</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 相談援助の構造と機能、相談援助における援助関係について理解する。 2. 相談援助の過程とそれに係る知識と技術について理解する。 3. この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、実践的に課題を発見する力と協調と協働を実現する力を身につけるようになる。 <p>【到達目標】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「学士力」の構成要素の一つである、問題解決力とこれまでに獲得した知識・機能・態度を総合的に活用し、課題を解決する力を身につけるようになる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「学士力」の構成要素の一つである、問題解決力とこれまでに獲得した知識・機能・態度を総合的に活用し、課題を解決する力を身につけるようになる。</p> <p>※毎回小テストを実施し、次回授業開始時に小テストの解説を実施する。</p>
テキスト	<p>テキスト名：ソーシャルワークの理論と方法[共通科目] ISBN コード：978-4-8058-8242-9 出版社：中央法規 著者名：一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 価格：2900 円(税別)</p>
参考文献	講義中紹介する。

成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	小テストと学期末試験 80%(配点 40% : 40%) 授業での積極性 (20%) 【フィードバック方法】毎回小テストを実施し、次回授業開始時に小テストの解説を実施する。毎回授業開始前に行う前回の小テスト解説の時、面談を受け付ける。
質問・相談の受付方法	講義終了後を利用する。
履修条件	なし
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴 講 生 【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】
メッセージ	毎週小テストを実施する。積極的な質問を歓迎する。 総合福祉館2年、県社会福祉協議会1年間従事したことがあり、授業中にその内容を紹介し共に考えることにします。
準備学習について	【事前学習】毎回授業中に予習内容を示めず。次回授業までに行うこと(1時間)。 【事後学習】毎回授業の終わりに行うテストを中心に復習を行い、次回の授業の初めの解説に確認する(1時間)。

講義科目名称： カウンセリング演習 A/カウンセリング演習 (2017 以前入学生)			
開講期間： 前期 (2017 以	配当年： 3 年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 森平准次、芳賀道匡、片岡祥			

テーマ	心理援助としてのカウンセリングの実際の全体像を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、リレーションづくりについて</p> <p>第2回 マイクロカウンセリングにおける基本的関わり行動</p> <p>第3回 クライエントの観察</p> <p>第4回 場面構成・治療契約・治療構造論</p> <p>第5回 簡単受容・聴くことの効果</p> <p>第6回 事柄への応答</p> <p>第7回 感情への応答</p> <p>第8回 質問の技法</p> <p>第9回 沈黙の理解と対応</p> <p>第10回 来談者中心療法の理解</p> <p>第11回 受容と共感</p> <p>第12回 遊戯療法</p> <p>第13回 家族療法</p> <p>第14回 自己観察</p> <p>第15回 事例検討</p> <p>※履修人数等により、実施の順序や内容はある程度変更する場合があります。</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【概要】心理学的援助を行ううえでの、カウンセリングの技法と理論について検討する。カウンセリングの技法や理論について紹介したうえで、演習としてロールプレイや討議を行う。また、その中での自己の体験についてもシェアし、検討する。</p> <p>【到達目標】心理学的援助としてのカウンセリングにおける構造や技法に関する知識やスキルについて説明できる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、「知識・技能を理解する力」「実践的に課題を発見する力」「課題を解決へと導く力」及び「学士力」の構成要素の一つである、「コミュニケーション・スキル」「問題解決力」を身につけることができる。</p>
テキスト	使用しない。適宜、資料を配布する。
参考文献	適宜、紹介します。
成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】毎回の授業で課すミニレポート (45%) と学期末に課すレポート (55%) の合計により評価する。</p> <p>【フィードバック方法】課題やレポート等に関するフィードバックは次回の授業で総評として口頭で伝える。成績評価のフィードバックについては学内制度を通じて行う。</p>
質問・相談の受付方法	授業終了後に教室にて、またはオフィスアワーの時間帯にて受け付ける。

履修条件	<p>「カウンセリング演習 A」は公認心理師取得を希望しない学生を対象にしており、「心理演習 A」や「心理演習 B」と内容的な重複がある。このため、「心理演習 B」履修者の履修を認めない。また、「カウンセリング演習 A」と「カウンセリング演習 B」のいずれも履修する場合は同一の教員のクラスを選択すること。なお、「カウンセリング演習」（2017 以前入学生）は通年科目となる。</p> <p>【希望的条件】臨床心理学概論、心理学的支援法を履修中または単位修得済が望ましい。</p>
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【要件を満たしていれば可】</p> <p>聴講生【要件を満たしていれば可】</p> <p>キャリアデザイン・カレッジ生【要件を満たしていれば可】</p>
メッセージ	<p>担当教員は心理援助職としての実務経験を持ち、心理療法の実践に関わるテーマを取り上げます。この科目では積極的に自分の意見を述べ、ディスカッションに参加することやロールプレイによるカウンセリング体験を行うことが求められます。ただ静かに講義を聞いていれば良いという科目ではありませんので、その点を踏まえた上で履修してください。</p>
準備学習について	<p>授業ごとに 60 分程度の予習と 60 分以上の復習として、演習における体験内容の言語化と、それと技法との関連について言語化することを行い、授業内容を説明できるようにして次回授業に臨んでください。</p>

講義科目名称： カウンセリング演習B/カウンセリング演習（2017以前入学生）			
開講期間： 後期（2017以	配当年： 3年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 森平准次、芳賀道匡、片岡祥			

テーマ	カウンセリングにおける認知、行動、体験、イメージを扱う技法を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、学派について</p> <p>第2回 漸進的筋弛緩法</p> <p>第3回 自律訓練法</p> <p>第4回 認知再構成法</p> <p>第5回 アクションプラン</p> <p>第6回 行動活性化</p> <p>第7回 マインドフルネス</p> <p>第8回 心理教育</p> <p>第9回 アサーション</p> <p>第10回 体験を重視した療法</p> <p>第11回 心理療法とイメージ</p> <p>第12回 箱庭作成の体験</p> <p>第13回 箱庭作品の理解</p> <p>第14回 コラージュ療法</p> <p>第15回 事例検討</p> <p>※履修人数等により、実施の順序や内容はある程度変更する場合があります。</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【概要】心理学的援助を行ううえで、認知、行動、体験、イメージを扱うための理論や技法について体験学習を含め学ぶ。認知行動療法やアート・セラピーを中心に、カウンセリングの技法と理論について検討する。授業各回では、技法や理論について紹介したうえで、クライアントが取り組む作業や体験について、履修生自ら取り組む演習を行う。また、その中で自己の体験についてもシェアし、検討する。</p> <p>【到達目標】心理学的援助としてのカウンセリングにおける認知行動療法やアート・セラピーの技法に関する知識やスキルについて説明できる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、「知識・技能を理解する力」「実践的に課題を発見する力」「課題を解決へと導く力」及び「学士力」の構成要素の一つである、「コミュニケーション・スキル」「問題解決力」を身につけることができる。</p>
テキスト	なし。適宜、資料を配布する。
参考文献	適宜、紹介します。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】毎回の授業で課すミニレポート（45%）と学期末に課すレポート（55%）の合計により評価する。</p> <p>【フィードバック方法】課題やレポート等に関するフィードバックは次回の授業で総評として口頭で伝える。成績評価のフィードバックについては学内制度を通じて行う。</p>
質問・相談の受付方法	授業終了後に教室にて、またはオフィスアワーの時間帯にて受け付ける。

履修条件	<p>「カウンセリング演習 B」は公認心理師取得を希望しない学生を対象にしており、「心理演習 B」と内容的な重複がある。このため、「心理演習 B」履修者の履修を認めない。また、「カウンセリング演習 A」と「カウンセリング演習 B」のいずれも履修する場合は同一の教員のクラスを選択すること。なお、「カウンセリング演習」（2017 以前入学生）は通年科目となる。</p> <p>【希望的条件】臨床心理学概論、心理学的支援法を履修中または単位修得済が望ましい。</p>
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【要件を満たしていれば可】 聴 講 生 【要件を満たしていれば可】 キャリアデザイン・カレッジ生【要件を満たしていれば可】</p>
メッセージ	<p>担当教員は心理援助職としての実務経験を持ち、心理療法の実践に関わるテーマを取り上げます。この科目では積極的に自分の意見を述べ、ディスカッションに参加することやロールプレイによるカウンセリング体験を行うことが求められます。ただ静かに講義を聞いていれば良いという科目ではありませんので、その点を踏まえた上で履修してください。</p>
準備学習について	<p>授業ごとに 60 分程度の予習と 60 分以上の復習として、演習における体験内容の言語化と、それと技法との関連について言語化することを行い、授業内容を説明できるようにして次回授業に臨んでください。</p>

講義科目名称： 心理的アセスメント/心理検査演習A (2017以前入学生)			
開講期間： 前期	配当年： 2年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 榊木てる子			

テーマ	心理検査を含む心理的アセスメントについて学ぶ。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、心理的アセスメントとは</p> <p>第2回 心理的アセスメントの観点</p> <p>第3回 心理的アセスメントの展開</p> <p>第4回 ケース・フォーミュレーション</p> <p>第5回 面接法</p> <p>第6回 観察法、面接における観察</p> <p>第7回 心理検査1 (知能検査)</p> <p>第8回 心理検査2 (発達検査、認知機能検査)</p> <p>第9回 心理検査3 (質問紙法)</p> <p>第10回 心理検査4 (作業検査法、自記式評価)</p> <p>第11回 心理検査5 (投影法)</p> <p>第12回 質問紙法検査の受検と結果算出の実習</p> <p>第13回 質問紙法検査の結果算出と解釈、報告書の作成の実習</p> <p>第14回 個別式検査の施行の実習</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【概要】講義、ディスカッション、実習などを通して、心理的アセスメントに関する知識や基本的スキルを学ぶ。</p> <p>【到達目標】心理的アセスメントに関する知識や基本的スキルを習得する。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】</p> <p>この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、「知識・技能を理解する力」、「主体的に学習する力」及び「学士力」の構成要素の一つである、「コミュニケーション・スキル」、「論理的思考力」、「倫理観」を身につけることができる。</p>
テキスト	なし。随時、資料を配布する。
参考文献	適宜、紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】授業参加への積極性(15%)、提出課題の完成度(25%)、授業内の小テスト(60%)から評価する。</p> <p>【フィードバック方法】課題への総評は次回の授業時に行う。成績評価のフィードバックについては、学内制度(成績評価問い合わせ制度)を通じて行う。</p>
質問・相談の受付方法	授業終了後の教室にて、またはオフィスアワーの時間帯にて受け付ける。
履修条件	心理学概論AB、発達心理学AB、心理学統計法AB、臨床心理学概論の単位を取得済みあるいは履修中であることが望ましい。
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【要件を満たしていれば可】</p> <p>聴講生【要件を満たしていれば可】</p> <p>キャリアデザイン・カレッジ生【要件を満たしていれば可】</p>

メッセージ	<p>2018年以降の入学生にとっては公認心理師養成科目になります。2年後期の心理演習Aの履修条件にも影響してきますので、公認心理師の受験資格取得を考えている方は必ず履修してください。</p> <p>また、心理職として心理検査をはじめとする心理アセスメントを実践してきた経験を授業のなかで反映させていきたいと考えています。</p>
準備学習について	<p>授業で小テストを実施します。授業時間外で振り返りを行うようにしてください。</p>

講義科目名称： 発達と老化の理解A			
開講期間： 前期	配当年： 2年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 本多祥子			

テーマ	老化に伴うこころとからだの変化と日常生活について理解する。
授業計画	第1回 人間の成長と発達の基礎的理解① ・「成長」「発達」の原則・法則（「成長」「発達」「成熟」の違い） ・生理的発達（スキヤモンの発達曲線/グループワーク）
	第2回 人間の成長と発達の基礎的理解② ・「成長」「発達」の考え方と環境 ・「成長」「発達」に影響する要因
	第3回 発達段階と発達課題① ・発達理論
	第4回 発達段階と発達課題② ・発達理論における発達段階と発達課題
	第5回 発達段階と発達課題③ ・身体的機能の「成長」「発達」 ・発達段階別の特徴的な疾病
	第6回 発達段階と発達課題④ ・心理的機能の発達
	第7回 発達段階と発達課題⑤ ・社会的機能の発達
	第8回 老年期の特徴と発達課題① ・老年期の定義
	第9回 老年期の特徴と発達課題② ・老化とは
	第10回 老年期の特徴と発達課題③ ・老年期の発達課題 ・老年期をめぐる今日的課題
	第11回 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活① ・老年期に経験しやすいライフイベント ・喪失体験と死別への適応 ※医療機関や介護保険事業所の職員として従事した経験から、老年期の環境に伴うこころとからだの変化について実例を挙げて説明します。
	第12回 高齢者のこころの問題と精神障害 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活② ・身体的な変化と生活への影響
	第13回 老年期の統合失調症とせん妄 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活③ ・心理的な変化と生活への影響

健康福祉学科

	<p>第14回 老年期の日常生活 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活④ ・社会的な変化と生活への影響</p> <p>第15回 総括</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【概要】 命の誕生から死に至るまでの心身の発達や成長・成熟、生理的变化を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 ライフサイクルの各期における身体的・心理的・社会的特徴、発達課題について理解することができる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力、主体的に学習する力及び「学士力」の構成要素の一つである、論理的思考力、人類の文化、社会と自然に関する知識の理解を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：最新・介護福祉士養成講座 12 発達と老化の理解 第2版 ISBN：978-4-8058-8401-0 出版社：中央法規 著者名：介護福祉士養成講座編集委員会編 価格（税抜）：2,200円</p>
参考文献	講義中適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学期末試験：課題：授業での積極性＝50：30：20 ・学期末試験に関するフィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。 ・課題レポートは、レポートを回収した次の回の授業内で総評を口頭で伝える。
質問・相談の受付方法	講義終了後、オフィスアワー等で適宜受け付ける。
履修条件	特に設けない。
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【可】</p> <p>聴講生【可】</p> <p>キャリアデザイン・カレッジ生【可】</p>
メッセージ	<p>介護福祉士国家試験の指定科目です。</p> <p>積極的な発言を期待します。</p> <p>医療機関や介護保険事業所の職員として従事した経験から、授業の中でそのエピソードや実務的な内容についても触れることができればと思います。</p>
準備学習について	<p>【事前学習】 授業内で予習内容を提示します。（1時間）</p> <p>【事後学習】 授業内で復習内容を提示します。（1時間）</p>

講義科目名称： 認知症の理解A			
開講期間： 前期	配当年： 2年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 新井恵子			

テーマ	認知症介護の基礎
授業計画	第1回 認知症を取り巻く状況（認知症高齢者の現状と今後）
	第2回 認知症ケアの理念と視点 介護に従事していた際の介護現場の実際に触れながら、認知症ケアの理念と視点について解説します。
	第3回 本人本位の視点ー認知症の人の体験ー 介護に従事していた際の利用者とのかかわりを紹介しながら、認知症の人を主体とする視点について解説します。
	第4回 認知症ケアの歴史
	第5回 認知症の医学的・心理的側面の基礎的知識① 認知機能の障害 脳のしくみと記憶・認知症による障害を学びます。
	第6回 認知症の医学的・心理的側面の基礎的知識② 認知症の人の心理 認知症の人の体験から考えます。
	第7回 認知症の医学的・心理的側面の基礎的知識③ 生活上の障害
	第8回 認知症の医学的・心理的側面の基礎的知識④ 対人関係の障害
	第9回 認知症の医学的・心理的側面の基礎的知識⑤ 社会関係の障害
	第10回 認知症に伴う生活への影響と認知症ケア① パーソン・センタード・ケア 生活に及ぼす認知機能の変化と影響をもとに、パーソン・センタード・ケア、ユマニチュード、回想法等を学びます。
	第11回 認知症に伴う生活への影響と認知症ケア② アセスメントツール、診断
	第12回 認知症に伴う生活への影響と認知症ケア③ コミュニケーションの方法（グループワーク） 認知機能障害の事例を用いて認知症の人へのかかわり方、コミュニケーションの方法を検討する機会とします。
	第13回 認知症に伴う生活への影響と認知症ケア④ 認知症の人へのケア（ディスカッション） 認知機能障害の事例を用いて検討した内容を発表し、他者の考えも含め、認知症の人へのかかわり方、コミュニケーションの方法等から認知症の人へのケアについて考える機会とします。
	第14回 予防と認知症の治療
	第15回 総括

健康福祉学科

授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を学ぶ。</p> <p>【到達目標】認知症に関する基礎的知識を理解し、認知症のある人の生活における介護の視点を述べることができる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力及び「学士力」の構成要素の一つである、問題解決力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：「最新・介護福祉士養成講座 13 認知症の理解 第2版」</p> <p>ISBN：978-4-8058-8402-7</p> <p>出版社：中央法規出版</p> <p>著者名：介護福祉士養成講座編集委員会 編</p> <p>価格（税込）：2,420円</p>
参考文献	講義中、適宜紹介する
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】以下の割合で評価する 学期末試験：レポート：授業での積極性＝60：25：15</p> <p>【フィードバック方法】授業内の発表は、口頭にて講評を行う。レポートは、提出後の次の授業内で口頭にてコメントする。学期末試験については、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</p>
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいはオフィスアワー等で随時受け付ける。
履修条件	特に設けない。
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【可】</p> <p>聴講生【可】</p> <p>キャリアデザイン・カレッジ生【可】</p>
メッセージ	<p>介護福祉士国家試験の指定科目です。</p> <p>高齢者施設と訪問介護の職員として従事した経験を、授業の中で、そのエピソードや実務的な内容についても触れることができればと思います。</p>
準備学習について	<p>【事前学習】認知症の人の手記を読み、認知症の「人」の理解に努めること。授業時に課題を提示しますので、次回授業までに行うこと（1時間以上）</p> <p>【事後課題】授業時に課題を提示。次回までに取り組み授業に臨むこと（1時間）</p>

講義科目名称： 障害の理解A			
開講期間： 前期	配当年： 2年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 木下寿恵			

テーマ	障がいのある人の生活を理解し、介護の視点を習得する
授業計画	第1回 障害の基礎的理解① (障害の概念、障害の法的定義)
	第2回 障害の基礎的理解② (障害者福祉の基本理念)
	第3回 障害の基礎的理解③ (障害者福祉に関する制度、障害者福祉制度と介護保険制度)
	第4回 視覚障がいを持っている人たちの生活① (障害の基礎的理解、障害の医学的・心理的側面の基礎的理解) 介護福祉士としての実務経験に基づき、障がいから派生する生活の困難さと介護上の留意点について、実際のエピソードを交えながら解説します
	第5回 視覚障がいを持っている人たちの生活② (障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援) 介護福祉士としての実務経験に基づき、障がいから派生する生活の困難さと介護上の留意点について、実際のエピソードを交えながら解説します
	第6回 聴覚・言語障がいを持っている人たちの生活① (障害の基礎的理解、障害の医学的・心理的側面の基礎的理解) 介護福祉士としての実務経験に基づき、障がいから派生する生活の困難さと介護上の留意点について、実際のエピソードを交えながら解説します
	第7回 聴覚・言語障がいを持っている人たちの生活② (障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援) 介護福祉士としての実務経験に基づき、障がいから派生する生活の困難さと介護上の留意点について、実際のエピソードを交えながら解説します
	第8回 障害を持っている人たちの心理、肢体不自由(運動機能障がい)を持っている人たちの生活① (障害の基礎的理解、障害の医学的・心理的側面の基礎的理解) 介護福祉士としての実務経験に基づき、障がいから派生する生活の困難さと介護上の留意点について、実際のエピソードを交えながら解説します
	第9回 肢体不自由(運動機能障がい)を持っている人たちの生活② (障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援)、肢体不自由者にとっての補装具 介護福祉士としての実務経験に基づき、障がいから派生する生活の困難さと介護上の留意点について、実際のエピソードを交えながら解説します
	第10回 知的障がいを持っている人たちの生活① (障害の基礎的理解、障害の医学的・心理的側面の基礎的理解) 介護福祉士としての実務経験に基づき、障がいから派生する生活の困難さと介護上の留意点について、実際のエピソードを交えながら解説します
	第11回 知的障がいを持っている人たちの生活② (障害のある人の生活と障害の特

健康福祉学科

	<p>性に応じた支援)</p> <p>介護福祉士としての実務経験に基づき、障がいから派生する生活の困難さと介護上の留意点について、実際のエピソードを交えながら解説します</p> <p>第12回 精神障がいを持っている人たちの生活(障害の基礎的理解、障害の医学的・心理的側面の基礎的理解、障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援)</p> <p>介護福祉士としての実務経験に基づき、障がいから派生する生活の困難さと介護上の留意点について、実際のエピソードを交えながら解説します</p> <p>第13回 内部障がいを持っている人たちの生活① (障害の基礎的理解)</p> <p>介護福祉士としての実務経験に基づき、障がいから派生する生活の困難さと介護上の留意点について、実際のエピソードを交えながら解説します</p> <p>第14回 内部障がいを持っている人たちの生活② (障害の医学的・心理的側面の基礎的理解)</p> <p>介護福祉士としての実務経験に基づき、障がいから派生する生活の困難さと介護上の留意点について、実際のエピソードを交えながら解説します</p> <p>第15回 内部障がいを持っている人たちの生活③ (障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援)</p> <p>介護福祉士としての実務経験に基づき、障がいから派生する生活の困難さと介護上の留意点について、実際のエピソードを交えながら解説します</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業概要】障がいのある人たちの心理や身体状況に関する基礎的知識を習得するとともに、障がいのある人たちが経験している事柄を理解し、家族等周囲の環境にも配慮した介護の視点を学ぶ</p> <p>【授業の到達目標】障がいのある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的知識を習得することができる。障がいのある人の地域での生活を理解し、家族や地域周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得することができる</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである「知識・技能を理解する力」「実践的に課題を発見する力」「課題を解決へと導く力」及び「学士力」の構成要素の一つである「コミュニケーション・スキル」「問題解決力」を身につけることができる</p>
テキスト	<p>テキスト名：最新 介護福祉士養成講座 14 障害の理解 第2版 ISBN：978-4-8058-8403-4 出版社：中央法規出版 著者名：介護福祉士養成講座編集委員会 編 価格(税抜)：2,200円</p>
参考文献	<p>『最新 介護福祉士養成講座 11 ころとからだのしくみ』中央法規出版 *1年次に購入したもの それぞれの障がいと当事者に関する文献などは、講義内で適宜紹介する</p>
成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】学期末試験：レポート等提出物=80：20 【フィードバック方法】学期末試験やレポートに関するフィードバックは、学内制度(成績評価問い合わせ制度)を通じて行う</p>
質問・相談の受付方法	<p>オフィスアワー(後日掲示)を積極的に活用してほしい。 メールを積極的に活用してほしい。(kino@suw.ac.jp)</p>
履修条件	特に設けない
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】</p>

メッセージ	<p>介護福祉士国家試験の指定科目です。 身体障害者療護施設と障害者支援施設において、生活支援員(介護主任など)として6年6ヵ月間介護に従事していました。日常生活を支援する中での障がい者とその家族の思いや状況などを、授業の中でお伝えしていきたいと考えています</p>
準備学習について	<p>【事前学習】 毎回授業内で予習内容を提示する。次回授業までに行っておくこと(2時間) 【事後学習】 授業で配布したプリントやテキストの該当ページを読み復習しておくこと(2時間)</p>

講義科目名称： 乳児保育 I			
開講期間： 前期	配当年： 1年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 村松幹子			

専
門
科
目
部

テーマ	保育士として必要な乳児保育の基礎知識を理解し、習得する。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>自己紹介</p> <p>授業の進め方について</p> <p>保育所における乳児保育の視聴（ビデオ）</p>
	<p>第2回 乳児保育の意義・目的・歴史の変遷</p> <p>講義（エピソードを通して）</p> <p>わらべうた</p> <p>絵本の読み聞かせ</p> <p>【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間）</p> <p>【事後学習】わらべうたを資料としてファイリングし、歌えるようにしておく（1時間）</p>
	<p>第3回 乳児保育の現状と課題</p> <p>講義（社会的状況の把握から）</p> <p>わらべうた</p> <p>絵本の読み聞かせ</p> <p>【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間）</p> <p>【事後学習】わらべうたを資料としてファイリングし、歌えるようにしておく（1時間）</p>
	<p>第4回 3歳未満児の発育・発達過程と保育者 (1) 社会的発達</p> <p>講義（具体的な保育の場面からの理解）</p> <p>わらべうた</p> <p>絵本の読み聞かせ</p> <p>【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間）</p> <p>【事後学習】わらべうたを資料としてファイリングし、歌えるようにしておく（1時間）</p>
	<p>第5回 3歳未満児の発育・発達過程と保育者 (2) 身体的発達</p> <p>講義（発達のためやす 写真からの理解）</p> <p>わらべうた</p>

	<p>絵本の読み聞かせ</p> <p>【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間）</p> <p>【事後学習】わらべうたを資料としてファイリングし、歌えるようにしておく（1時間）</p>
第6回	<p>3歳未満児の発育・発達過程と保育者（3）精神的発達</p> <p>講義（保育の写真を参考に）</p> <p>わらべうた</p> <p>絵本の読み聞かせ</p> <p>【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間）</p> <p>【事後学習】わらべうたを資料としてファイリングし、歌えるようにしておく（1時間）</p>
第7回	<p>3歳未満児の発育・発達過程と保育者（4）自己の形成</p> <p>講義（具体的な保育場面から）</p> <p>わらべうた</p> <p>絵本の読み聞かせ</p> <p>【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間）</p> <p>【事後学習】わらべうたを資料としてファイリングし、歌えるようにしておく（1時間）</p>
第8回	<p>3歳未満児の発育・発達過程と保育者（5）集団の中の育ち</p> <p>講義（保育の写真を参考に）</p> <p>わらべうた</p> <p>絵本の読み聞かせ</p> <p>【事前学習】保育所保育指針第2章1項、2項を一読しておく（1時間）</p> <p>【事後学習】わらべうたを資料としてファイリングし、歌えるようにしておく（1時間）</p>
第9回	<p>3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の基本〈1〉保育者のかかわりの基本</p> <p>講義（エピソードなどから）</p> <p>わらべうた</p> <p>絵本の読み聞かせ</p> <p>【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間）</p> <p>【事後学習】わらべうたを資料としてファイリングし、歌えるようにしておく（1時間）</p>

- 第10回 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の基本〈2〉保育所と保護者との連携
 講義（おたよりを参考に）
 わらべうた
 絵本の読み聞かせ
 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間）
 【事後学習】わらべうたを資料としてファイリングし、歌えるようにしておく（1時間）
- 第11回 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の基本〈3〉3歳未満児の生活と環境
 講義（保育所での実践例を使いながら）
 わらべうた
 絵本の読み聞かせ
 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間）
 【事後学習】わらべうたを資料としてファイリングし、歌えるようにしておく（1時間）
- 第12回 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の基本〈4〉3歳未満児の遊びと環境
 講義（保育所での実践例を使いながら）
 わらべうた
 絵本の読み聞かせ
 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間）
 【事後学習】わらべうたを資料としてファイリングし、歌えるようにしておく（1時間）
- 第13回 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の基本〈5〉2歳から3歳への移行期の保育
 講義（保育所での実践例を使いながら）
 わらべうた
 絵本の読み聞かせ
 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間）
 【事後学習】わらべうたを資料としてファイリングし、歌えるようにしておく（1時間）
- 第14回 乳児保育の計画・記録・評価の意味
 講義（保育所での実践例を使いながら）
 わらべうた

	<p>絵本の読み聞かせ</p> <p>【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間）</p> <p>【事後学習】わらべうたを資料としてファイリングし、歌えるようにしておく</p> <p>第15回 連携と協働 職員間・関係機関・保護者</p> <p>講義（具体的な事例から）</p> <p>わらべうた</p> <p>絵本の読み聞かせ</p> <p>【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間）</p> <p>【事後学習】わらべうたを資料としてファイリングし、歌えるようにしておく（1時間）</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業概要】</p> <p>乳児保育の意義と目的、3歳未満児の発達の理解</p> <p>毎回の授業の冒頭においてわらべうたを1曲ずつ、覚えていく。</p> <p>【到達目標】</p> <p>乳児保育に必要な基礎知識を身に付け、実践へとつなげる</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】</p> <p>この科目の履修を通じて、子ども学部が学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、主体的に学習する力及び「学力」の構成要素の一つである、論理的思考力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：乳児保育の理論と実践</p> <p>I S B N：978-4-332-70196-5</p> <p>出版社：光生館</p> <p>著者名：阿部和子・大方美香 編著</p> <p>価格（税別）：本体1,900円</p>
参考文献	保育所保育指針
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】</p> <p>授業への意欲・授業の中で行われる10回の小テストの合計点（100点満点）で評価する。</p> <p>【フィードバック方法】</p> <p>学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う</p>
質問・相談の受付方法	授業終了時・随時
履修条件	特になし
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】聴講生【可】
メッセージ	保育園園長として20年余り、授業の中で経験と実践に基づく具体的な見識を伝えていこうと思います。毎回の授業で保育の場で実際に活用しているわらべうた等を学びます。また授業においては事例やエピソード、写真、動画等ををふんだんに活用して進めていきます。

準備学習について	<p>【事前学習】授業内で提示する。次回授業までに行っておくこと</p> <p>【事後学習】毎回の授業でわらべうたを学ぶ。楽譜等を配布するので必ず、ファイリングし、復習しておく。</p> <p>小テストに備えた授業の振り返り</p>
----------	--

専
門
科
目
子
ども
学
部

講義科目名称： 子ども家庭福祉			
開講期間： 前期	配当年： 2年	単位数： 2	必選： 必修
担当教員： 灰谷和代			

専 子
門 ども
科 学部
目 目

テーマ	子どもと家庭にかかわる福祉制度や支援について学ぶ
授業計画	第1回 オリエンテーション、子ども・家庭・福祉とは 【事後学習】 子ども・家庭・福祉についてまとめる（1時間）
	第2回 子ども家庭福祉の展開①子ども親と子どもの権利 【事前学習】 子ども親と子どもの権利を調べ事前ワークシートにまとめる（1時間） 【事後学習】 子ども親と子どもの権利についてまとめる（1時間）
	第3回 子ども家庭福祉の展開②歴史的展開 【事前学習】 子ども家庭福祉の歴史的展開を調べ事前ワークシートにまとめる（1時間） 【事後学習】 子ども家庭福祉の歴史的展開についてまとめる（1時間）
	第4回 子どもと家庭にかかわる法制度・関係機関と専門職の役割 【事前学習】 法制度・関係機関・専門職を調べ事前ワークシートにまとめる（1時間） 【事後学習】 法制度・関係機関・専門職についてまとめる（1時間）
	第5回 乳幼児期の子どもがいる家庭の支援と制度①母子保健 【事前学習】 母子保健を調べ事前ワークシートにまとめる（1時間） 【事後学習】 母子保健についてまとめる（1時間）
	第6回 乳幼児期の子どもがいる家庭の支援と制度②保育 【事前学習】 保育を調べ事前ワークシートにまとめる（1時間） 【事後学習】 保育についてまとめる（1時間）
	第7回 乳幼児期の子どもがいる家庭の支援と制度③子育て支援 【事前学習】 子育て支援を調べ事前ワークシートにまとめる（1時間） 【事後学習】 子育て支援についてまとめる（1時間）
	第8回 少年期の子どもがいる家庭の支援と制度①児童健全育成 【事前学習】 児童健全育成を調べ事前ワークシートにまとめる（1時間） 【事後学習】 児童健全育成についてまとめる（1時間）

第9回	<p>少年期の子どもがいる家庭の支援と制度②非行</p> <p>【事前学習】 非行を調べ事前ワークシートにまとめる (1時間)</p> <p>【事後学習】 非行についてまとめる (1時間)</p>
第10回	<p>少年期の子どもがいる家庭の支援と制度③いじめ・不登校</p> <p>【事前学習】 いじめ・不登校を調べ事前ワークシートにまとめる (1時間)</p> <p>【事後学習】 いじめ・不登校についてまとめる (1時間)</p>
第11回	<p>障がいのある子どもがいる家庭の支援と制度</p> <p>【事前学習】 障がい児の支援と制度を調べ事前ワークシートにまとめる (1時間)</p> <p>【事後学習】 障がい児の支援と制度についてまとめる (1時間)</p>
第12回	<p>ひとり親家庭の支援と制度</p> <p>【事前学習】 ひとり親家庭の支援と制度を調べ事前ワークシートにまとめる (1時間)</p> <p>【事後学習】 ひとり親家庭の支援と制度についてまとめる (1時間)</p>
第13回	<p>子どもの貧困の現状と対策</p> <p>【事前学習】 子どもの貧困の現状と対策を調べ事前ワークシートにまとめる (1時間)</p> <p>【事後学習】 子どもの貧困の現状と対策についてまとめる (1時間)</p>
第14回	<p>児童虐待とDV (ドメスティックバイオレンス) の現状と課題</p> <p>【事前学習】 児童虐待とDVの現状と課題を調べ事前ワークシートにまとめる (1時間)</p> <p>【事後学習】 児童虐待とDVの現状と課題についてまとめる (1時間)</p>
第15回	<p>子ども家庭福祉における支援の実際</p> <p>子ども家庭福祉における多問題家族の事例を用いて支援の実際を知る ※事例は、担当教員の実務経験に基づいて作成したオリジナル事例を用いる</p> <p>【事前学習】 今までの授業を振り返りまとめる (1時間)</p> <p>【事後学習】 子ども家庭福祉における支援の実際についてまとめる (1時間)</p>

<p>授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連</p>	<p>【授業の概要と到達目標】 子ども家庭福祉の歴史的展開などを理解した上で、子どもの年代ごとや子ども家庭の課題ごとの福祉制度や支援システムについて学ぶことで、保育現場や児童福祉現場での子どもと家庭の課題を解決に導くための基本的な知識と力を養うことを到達目標としている。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである「知識・技能を理解する力」と「主体的に学習する力」、および「学士力」の構成要素の一つである「人類の文化、社会と自然に関する知識の理解」「チームワーク・リーダーシップ」を身につける。</p>
<p>テキスト</p>	<p>テキスト名：新版 よくわかる子ども家庭福祉 ISBN： 978-4-623-08317-6 出版社：ミネルヴァ書房 著者名：吉田幸恵、山縣文治 編著 価格（税抜）：2,400円</p>
<p>参考文献</p>	<p>必要に応じて授業の中で紹介します。</p>
<p>成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法</p>	<p>【成績評価の基準・方法】 授業への積極性（ワークシート・コメントペーパーの提出状況と記述内容、ディスカッションやグループワーク等への参加状況等による評価）（50%）、学期末のレポート（50%）で評価する。</p> <p>【課題に対するフィードバック方法】 ワークシートやコメントペーパーを回収した時は、次回の授業内で総評を口頭で伝える。ディスカッション等の報告内容については必要に応じてコメントする。</p>
<p>質問・相談の受付方法</p>	<p>授業の前後やメール等で受け付ける。</p>
<p>履修条件</p>	<p>特に設けないが、子ども学科の必修科目である。</p>
<p>特別学生の履修可否</p>	<p>科目等履修生【可】 聴 講 生 【可】</p>
<p>メッセージ</p>	<p>毎回（第1回目を除く）の授業で、各自が事前にまとめた事前ワークシートを基にディスカッション等の時間を設ける。毎回の授業終わりに次回の事前ワークシートを配布するので次回授業までに必ずまとめておくこと。また、毎回の授業でコメントペーパーの提出を求める。※初回授業で詳細を説明するので必ず出席すること。 担当教員は、保育所等での保育、地域における子育て支援、市役所等での相談援助の実務経験があるため、必要に応じて実務経験に基づく現場の実際などを紹介する。</p>
<p>準備学習について</p>	<p>【事前学習】 毎回（第1回目授業を除く）、次回の授業にかかわる内容についてテキスト等を調べて事前ワークシートにまとめる（1時間） 【事後学習】 毎回、授業終了後にテキストや配布資料を読んでまとめる（1時間）</p>

講義科目名称： 社会的養護 I /社会的養護 (2018以前入学生) 授業コード： 92040 92045

英文科目名称： -/Theory of Out-of-Home Care

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2	選択
担当教員			
福田幸夫、灰谷和代			
添付ファイル			

テーマ	社会的養護の基本理念と原則に則った子どもの支援について	
授業計画	第1回	<p>授業オリエンテーション、社会的養護の意義と変遷</p> <p>社会的養護の歴史を踏まえ、現代社会における子どもと家族が抱える問題について学び、社会的養護を学ぶ意味と保育士の役割を理解する。(テキスト第1講 p2~p18)</p> <p>*授業内課題の提出</p> <p>*次回までの復習課題の提示</p>
	第2回	<p>児童の人権擁護と社会的養護</p> <p>子どもの権利を社会的養護の場でどのように展開するか、また、施設保育士としての倫理と責務について学ぶ。(テキスト第2講 p19~p33)</p> <p>*授業内課題の提出</p> <p>*前回授業の復習小テスト</p> <p>*前回授業の復習課題の提出</p> <p>*次回までの復習課題の提示</p>
	第3回	<p>家庭の機能と社会的養護(レポート授業①)</p> <p>子どもが生活する場における家庭機能について理解し、家庭養護と施設養護の体系を学ぶ。(テキスト第3講 p34~48)</p> <p>*授業内課題の提出</p> <p>*前回授業の復習小テスト</p> <p>*前回授業の復習課題の提出</p> <p>*次回までの復習課題の提示</p>
	第4回	<p>社会的養護の基本原則Ⅰ：養育—日常生活支援—</p> <p>子どもの人権に配慮した日常生活支援の実際を学び、施設規模による養育への影響について考察する。(テキスト第4講 p49~61)</p> <p>*授業内課題の提出</p> <p>*前回授業の復習小テスト</p> <p>*前回授業の復習課題の提出</p> <p>*次回までの復習課題の提示</p>
	第5回	<p>社会的養護の基本原則Ⅱ：保護—自己実現に向けた支援—</p> <p>施設における子どもの支援と親子関係調整、地域との関係調整について理解する。(テキスト第5講 p62~73)</p> <p>*授業内課題の提出</p> <p>*前回授業の復習小テスト</p> <p>*前回授業の復習課題の提出</p> <p>*次回までの復習課題の提示</p>
	第6回	<p>社会的養護の基本原則Ⅲ：子どもであることへの回復—治療的支援—</p> <p>被虐待児の心の癒しや傷の回復への支援、施設内の他職種とのチームワークについて理解する。(テキスト第6講 p74~p85)</p> <p>*授業内課題の提出</p> <p>*前回授業の復習小テスト</p> <p>*前回授業の復習課題の提出</p> <p>*次回までの復習課題の提示</p>
	第7回	<p>社会的養護の基本原則Ⅳ：生活文化と生活力の習得—自立支援—</p> <p>日常生活を通して生活文化と生活力を習得する支援の実際を具体的に学ぶ。自立支援のあり方を学び、保育士の専門性を理解する。(テキスト第7講 p86~p100)</p> <p>*授業内課題の提出</p> <p>*前回授業の復習小テスト</p> <p>*前回授業の復習課題の提出</p> <p>*次回までの復習課題の提示</p>
	第8回	<p>社会的養護の基本原則Ⅴ：生命倫理観の醸成—生と性の倫理—(レポート授業②)</p> <p>生と性の倫理について、社会的養護における捉え方、支援について学ぶ。映像資料により、命の誕生と特別養子縁組を題材に生命倫理について考える。(テキスト第8講 p101~p117)</p> <p>*授業内課題の提出</p> <p>*前回授業の復習小テスト</p> <p>*前回授業の復習課題の提出</p> <p>*次回までの復習課題の提示</p>
	第9回	<p>社会的養護の制度と実施体系</p> <p>制度と実施の体系、社会的養護に携わる専門職について学ぶ。(テキスト第9講 p118~p134)</p> <p>*授業内課題の提出</p> <p>*前回授業の復習小テスト</p> <p>*前回授業の復習課題の提出</p> <p>*次回までの復習課題の提示</p>
	第10回	<p>施設養護の対象・形態・専門職Ⅰ—乳児院と児童養護施設—</p>

	<p>乳児院・児童養護施設の事例を通して、社会的養護の実践について学ぶ。(テキスト第10講 p135～p147) *授業内課題の提出 *前回授業の復習小テスト *前回授業の復習課題の提出 *次回までの復習課題の提示</p> <p>第11回 施設養護の対象・形態・専門職Ⅱ—障害児の入所施設— 障害児の入所施設の事例を通して、社会的養護の実践について学ぶ。(テキスト第11講 p148～p159) *授業内課題の提出 *前回授業の復習小テスト *前回授業の復習課題の提出 *次回までの復習課題の提示</p> <p>第12回 施設養護の対象・形態・専門職Ⅲ—児童自立支援施設と児童心理治療施設— 社会に適応しづらい子どもの入所施設の事例を通して、社会的養護の実践について学ぶ。(テキスト第12講p160～170) *復習課題⑤(提出期限:7月31日) *授業内課題の提出 *前回授業の復習小テスト *前回授業の復習課題の提出 *次回までの復習課題の提示</p> <p>第13回 家庭養護の特徴・対象・形態—里親・ファミリーホーム— 里親とファミリーホームについて、制度と養育の実際を学ぶ。(テキスト第13講 p171～p194) *授業内課題の提出 *前回授業の復習小テスト *前回授業の復習課題の提出 *次回までの復習課題の提示</p> <p>第14回 社会的養護の現状と課題Ⅰ 施設の運営管理について基礎的に知識を得る。また、保育士としての倫理の確立と権利擁護の仕組みについて学ぶ。(テキスト第14講 p195～p215) *授業内課題の提出 *前回授業の復習小テスト *前回授業の復習課題の提出 *次回までの復習課題の提示 *総括レポート課題提示(提出期限:15回授業時)</p> <p>第15回 社会的養護の現状と課題Ⅱ 被措置児童等虐待の防止、地域福祉との関係、施設保育士として求められる専門性について学ぶ。(テキスト第14講 p216～p238) *授業内課題の提出 *前回授業の復習小テスト *前回授業の復習課題の提出 *総括レポートの提出</p>
<p>授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連</p>	<p>【授業概要】児童福祉施設で働く施設保育士に必要な社会的養護の知識と技術を習得する。児童養護の歴史と体系、関連する法律、児童福祉施設や里親による養育の実際と自立支援、家族支援について学ぶ。「児童虐待」「トラウマ」「愛着障害」「発達障害」等に関する知識を身につけ、生活場面における支援、家族関係の調整、学校や地域との連携、援助者の資質、倫理等について理解する。</p> <p>【到達目標】 ①権利擁護を踏まえた子どもの支援について理解し、説明できる。 ②社会的養護における子どもとその家庭に対する支援方法について理解し、説明できる。 ③社会的養護の理念と原則について理解し、説明できる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、①知識・技能を理解する力、②主体的に学習する力、及び「学士力」の構成要素の一つである⑩倫理観を身につけることができる。</p>
<p>テキスト</p>	<p>テキスト名:児童の福祉を支える 社会的養護Ⅰ ISBN:978-4-89347-324-0 出版社:萌文書林 著者名:吉田眞理編著、坂本正路、高橋一弘、村田紋子 価格(税抜):2,000円</p>
<p>参考文献</p>	<p>『子ども虐待』西澤哲(講談社)、『児童福祉施設の子どもたち』大久保真紀(高文研)、『「家族」をつくる養育里親という生き方』村田和木(中央公論新社)</p>
<p>成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法</p>	<p>授業内の課題提出30%、復習小テスト14回25%、復習課題14回25%、総括レポート1回20% 次回授業日に、授業内課題や復習小テストについて講評及び回答をフィードバックし、解説する。成績については、学内の成績評価問い合わせ制度に則り、説明を行う。</p>
<p>質問・相談の受付方法</p>	<p>講義終了後、教室あるいは講師控室(研究棟1階)で受け付ける。 また、各授業回にて提出課題に質問記入欄を設け、次回授業でフィードバックする。</p>
<p>履修条件</p>	<p>座席は状況により固定するので、従うこと。</p>
<p>特別学生の履修可否</p>	<p>科目等履修生【可】 聴講生【可】</p>
<p>メッセージ</p>	<p>母子生活支援施設の母子支援員として7年間働いていました。授業のなかで、実務経験からのエピソードに触れていきたいと思っています。社会的養護では、様々な事情を抱え、実の親によらない養育環境で育つ子どもについて学びます。保育士として必要な専門的知識を身につけるとともに、将来、様々な状況にある子どもと家族に対して理解して関わられる「市民」となってください。</p>
<p>準備学習について</p>	<p>各授業の前に45分程度の子習として、所定のテキストページを読み、不明な単語等は調べておいてください。授業後は復習課題(次回提出)をし、再度テキストと授業時のプリントなどを読み返して復習し、次回の小テストに備えてください。</p>

講義科目名称： 子ども家庭支援論/家庭支援論 (2018 以前入学生)			
開講期間： 後期	配当年： 2年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 灰谷和代			

テーマ	保育者として必要な子ども家庭支援について学ぶ	
授業計画	第1回	オリエンテーション、子ども家庭支援とは 【事後学習】テキストや配布資料を読んで復習する (1時間)
	第2回	子ども家庭支援の目標と機能 【事前学習】テキスト P11～19 を読んで事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】テキストや配布資料を読んで復習する (1時間)
	第3回	子ども家庭支援における保育者の役割 【事前学習】テキスト P20～35 を読んで事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】テキストや配布資料を読んで復習する (1時間)
	第4回	保育士に求められる基本的態度 【事前学習】テキスト P38～48 を読んで事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】テキストや配布資料を読んで復習する (1時間)
	第5回	保育の特性と保育士の専門性を生かした子ども家庭支援 【事前学習】テキスト P49～61 を読んで事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】テキストや配布資料を読んで復習する (1時間)
	第6回	保護者との相互理解と信頼関係の形成 【事前学習】テキスト P62～76 を読んで事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】テキストや配布資料を読んで復習する (1時間)
	第7回	家庭の状況に応じた支援 【事前学習】テキスト P77～93 を読んで事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】テキストや配布資料を読んで復習する (1時間)
	第8回	地域の資源の活用と関係機関との連携・協力 【事前学習】テキスト P94～102 を読んで事前ワークシートにまとめる (1時間)

	<p>【事後学習】テキストや配布資料を読んで復習する（1時間）</p>
第9回	<p>子育て家庭の福祉を図るための社会資源</p> <p>【事前学習】テキストP104～118を読んで事前ワークシートにまとめる（1時間）</p> <p>【事後学習】テキストや配布資料を読んで復習する（1時間）</p>
第10回	<p>次世代育成支援対策と子ども・子育て新制度の推進</p> <p>【事前学習】テキストP119～140を読んで事前ワークシートにまとめる（1時間）</p> <p>【事後学習】テキストや配布資料を読んで復習する（1時間）</p>
第11回	<p>子ども家庭支援の対象と内容</p> <p>【事前学習】テキストP142～160を読んで事前ワークシートにまとめる（1時間）</p> <p>【事後学習】テキストや配布資料を読んで復習する（1時間）</p>
第12回	<p>保育所等利用児童とその家庭への支援</p> <p>【事前学習】テキストP161～175を読んで事前ワークシートにまとめる（1時間）</p> <p>【事後学習】テキストや配布資料を読んで復習する（1時間）</p>
第13回	<p>地域の子育て家庭への支援</p> <p>【事前学習】テキストP176～192を読んで事前ワークシートにまとめる（1時間）</p> <p>【事後学習】テキストや配布資料を読んで復習する（1時間）</p>
第14回	<p>要保護児童およびその家庭への支援</p> <p>【事前学習】テキストP193～209を読んで事前ワークシートにまとめる（1時間）</p> <p>【事後学習】テキストや配布資料を読んで復習する（1時間）</p>
第15回	<p>子ども家庭支援に関する現状と課題</p> <p>【事前学習】テキストP210～227を読んで事前ワークシートにまとめる（1時間）</p> <p>【事後学習】テキストや配布資料を読んで復習する（1時間）</p>

<p>授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連</p>	<p>【授業の概要と到達目標】 保育者は、子どもに対する直接的な保育や支援だけでなく、保護者や家庭への支援が求められる。この授業では、子どもと家庭の現状やその支援や制度について主体的に学ぶことで、保育者として何が必要かを考え実践につなげることを到達目標とする。なお、この授業は毎回（第1回目を除く）、反転授業の形式で進める。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである「知識・技能を理解する力」「主体的に学習する力」、及び「学士力」の構成要素の一つである「問題解決力」「チームワーク・リーダーシップ」を身につける。</p>
<p>テキスト</p>	<p>テキスト名：「子ども家庭支援」 ISBNコード：978-4-623-07929-2 出版社：ミネルヴァ書房 著者名：倉石哲也、大竹智 編著 価格（税抜）：2,200円</p>
<p>参考文献</p>	<p>必要に応じて授業の中で紹介します。</p>
<p>成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法</p>	<p>【成績評価の基準・方法】 授業への積極性（ワークシート・コメントペーパーの提出状況と記述内容、ディスカッション等への参加状況等による評価）（50%）、学期末のレポート（50%）で評価する。</p> <p>【課題に対するフィードバック方法】 ワークシートやコメントペーパーを回収した時は、次回の授業内で総評を口頭で伝える。ディスカッション等の報告内容については必要に応じてコメントする。</p>
<p>質問・相談の受付方法</p>	<p>授業の前後やメール等で受け付ける。</p>
<p>履修条件</p>	<p>特に設けないが、保育士資格取得の必須科目である。</p>
<p>特別学生の履修可否</p>	<p>科目等履修生【可】 聴講生【可】</p>
<p>メッセージ</p>	<p>毎回（第1回目を除く）の授業で、各自が事前にまとめた事前ワークシートを基にディスカッション等の時間を設ける。毎回の授業終わりに次回の事前ワークシートを配布するので次回授業までに必ずまとめておくこと。また、毎回の授業でコメントペーパーの提出を求める。※初回授業で詳細を説明するので必ず出席すること。 担当教員は、保育所等での保育、地域における子育て支援、市役所等での相談援助の実務経験があるため、必要に応じて実務経験に基づく現場の実際などを紹介する。</p>
<p>準備学習について</p>	<p>【事前学習】 毎回（第1回目授業を除く）、次回の授業範囲のテキスト等を事前に読んで事前ワークシートにまとめる（1時間） 【事後学習】 毎回、授業終了後にテキストや配布資料を読んで復習する（1時間）</p>

講義科目名称： 発達支援論			
開講期間： 前期	配当年： 3年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 上野永子			

テーマ	発達障がいに関する基礎知識及び、インクルーシブな社会の視点からその支援について学ぶ
授業計画	<p>第1回 集団における障害を持つ子ども</p> <p>第2回 生まれつきの発達特性①身体感覚</p> <p>第3回 生まれつきの発達特性②認知</p> <p>第4回 生まれつきの発達特性③コミュニケーション</p> <p>第5回 ASD と ADHD の発達特性に応じた支援</p> <p>第6回 誤学習としての不適切な行動</p> <p>第7回 「発達的气になる子ども」の自己観</p> <p>第8回 「発達的气になる子ども」の支援①見通し</p> <p>第9回 「発達的气になる子ども」の支援②自尊心とセルフコントロール</p> <p>第10回 「発達的气になる子ども」の支援③手段としての言葉</p> <p>第11回 「発達的气になる子ども」の保護者支援①保護者支援としての子ども支援</p> <p>第12回 「発達的气になる子ども」の保護者支援②子ども支援としての保護者支援</p> <p>第13回 「発達的气になる子ども」の保護者支援③保育者の役割</p> <p>第14回 まとめ：インクルーシブな社会とは</p> <p>第15回 インクルーシブな社会実現に向けて</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【概要】本講義では、発達障がいを持つ子どもの特性を理解した上で、その支援のあり方について学びます。また、子どものもつ「障がい」に起因するとされがちな子どもの問題行動には、保育者の対応に起因するものがあることを知り、インクルーシブな社会に向けて、何が必要なのかを考えることを目的とします。</p> <p>【到達目標】保育者として必要な、インクルーシブな社会を実現するための基礎知識を身につける。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】</p> <p>この科目の履修を通じて、子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力、及び「学士力」の構成要素の一つである、これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：「気になる子の本当の発達支援 新版」</p> <p>ISBN：9784907537111</p> <p>出版社：風鳴舎</p> <p>著者：市川奈緒子</p> <p>価格（税抜）：1,700円</p>
参考文献	特になし
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>講義中に課すレポート 30% 学期末のレポート：70%で評価します。</p> <p>講義中に課すレポートについては、返却時に口頭でコメントする。</p> <p>期末レポートは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行います。</p>
質問・相談の受付方法	講義終了後の教室で、もしくは、オフィスアワーに個人研究室で、質問・相談に応じます。
履修条件	特になし

特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】
メッセージ	教育臨床の現場で臨床心理士として発達に課題のある子どもと養育者の支援を実践してきました。この授業を通して、みなさんの発達障がいについて、発想を転換してもらえればと思います。
準備学習について	授業内で、次回の予習内容を指示します。次回の授業までに予習を行い（1時間程度）、内容を理解して次回授業に臨んでください。 また、授業終了後にふり返しを行ってください（1時間程度）。

専
門
こ
も
学
部
目
部

講義科目名称： 児童福祉心理学			
開講期間： 前期	配当年： 3年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 上野永子			

テーマ	児童福祉現場における子どもの問題と臨床心理学的理解
授業計画	<p>第1回 自己理解として、自分自身の成育歴を振り返る</p> <p>第2回 子どもの発達（1）乳児期の問題と病理</p> <p>第3回 子どもの発達（2）幼児期の問題と病理</p> <p>第4回 子どもの発達（3）児童期の問題と病理</p> <p>第5回 子どもの発達（4）思春期の問題と病理</p> <p>第6回 逆境的小児期体験とトラウマについて</p> <p>第7回 児童虐待について</p> <p>第8回 DVについて</p> <p>第9回 非行について</p> <p>第10回 不登校について</p> <p>第11回 発達障がいについて</p> <p>第12回 トラウマのケアについて</p> <p>第13回 保育現場の子どもたちについて</p> <p>第14回 社会的養護の子どもたちについて</p> <p>第15回 授業の総括</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【概要】児童福祉現場において出会う、さまざまな子どもの課題（被虐待・DV・非行・不登校・発達障害など）について知り、子どもの「こころ」を大事にするために大人ができることについて知ることを目標とします。</p> <p>【到達目標】ケアワーカーとして必要な、子どもの心理社会的問題についての知識を身につけます。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力及び「学士力」の構成要素の一つである、論理的思考力を身につけることができる。</p>
テキスト	指定しません。適宜、プリントを配布します。
参考文献	参考文献は講義中に適宜紹介します。
成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	<p>講義内で課すレポート（30%）と期末試験（70%）で評価します。</p> <p>講義内で課したレポートについては、返却時に口頭でコメントします。</p> <p>期末試験については、学内制度(成績評価問い合わせ制度)を通じて行います。</p>
質問・相談の受付方法	オフィスアワー（後日掲示）にて、質問・相談に応じます。
履修条件	特に設けません。
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【可】</p> <p>聴講生【可】</p>

メッセージ	臨床心理士として、様々な事例に携わってきました。それらの経験を講義内でも話題にしたいと考えています。心理学の視点から、社会の様々な問題について一緒に考えましょう。また、日程調整ができれば、講義内で里親さんの養育体験談についてお話しいただく機会を作ることを予定しています。決定次第、受講生にお知らせします。そのため、シラバスの順序が若干入れ替わることもあり得ます。
準備学習について	授業終了後に次回の予習内容を指示します。授業毎に、1時間以上の予習復習を行い、内容を理解して次回授業に臨んでください。

講義科目名称： 親子関係支援論			
開講期間： 前期	配当年： 4年	単位数： 1	必選： 選択
担当教員： 上野永子			

テーマ	アタッチメントの視点から親子の関係性支援について学ぶ
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 人間の赤ちゃん</p> <p>第3回 アタッチメントとは</p> <p>第4回 乳幼児期のアタッチメント</p> <p>第5回 乳幼児期のアタッチメントと心理社会的発達</p> <p>第6回 保育現場におけるアタッチメント</p> <p>第7回 児童期のアタッチメント</p> <p>第8回 成人期のアタッチメント</p> <p>第9回 アタッチメントと児童虐待</p> <p>第10回 アタッチメントと発達障がい</p> <p>第11回 アタッチメントの視点からの養育者支援</p> <p>第12回 アタッチメントの視点からの里親支援</p> <p>第13回 アタッチメントの視点からのDV被害者・加害者支援</p> <p>第14回 アタッチメントの視点からの司法への介入</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】本講義では、親子の関係性を支援する上で重要なアタッチメントを中心に学びます。まず最初に、アタッチメント理論を、その後それらが臨床分野でどのように援用されているのかについて学びます。</p> <p>【到達目標】アタッチメント理論と研究から得られた知見を活かした実践力を身につけることを目標とします。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである知識・主体的に学習する力及び「学士力」の構成要素の一つである、これまでに獲得した知識・技能・態度などを総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：赤ちゃんの発達とアタッチメント 乳幼児保育で大切にしたいこと ISBN：978-4-89464-247-8 出版社：ひとなる書房 著者名：遠藤利彦 価格(税抜)：1,300円</p> <p>「保育とアタッチメント」 出版社：ひとなる書房 (近刊予定)</p>
参考文献	授業中に、適宜、紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	<p>補講レポート：30％・学期末のレポート：70％で評価します。</p> <p>補講レポートについては、講義内で口頭でコメントする。</p> <p>期末レポートは、学内制度(成績評価問い合わせ制度)を通じて行います。</p>
質問・相談の受付方法	講義終了後もしくは、オフィスアワー

履修条件	特に、設けない。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】
メッセージ	臨床現場で養育者支援に携わってきた経験も踏まえて、アタッチメント理論と研究がいかに関与し、臨床現場に役立つのかについてお伝えできればと思います。また、自分の考えを、論理的に相手に伝えられる力をつけることを目指しましょう！
準備学習について	予習を前提として、講義を進めます。授業終了後に、次回の予習内容を指示するので、授業ごとに1時間以上の予習復習を行い、内容を理解して次回授業に臨んでください。

子ども学部
専門科目